

①大谷地区海岸高潮対策事業 ～砂浜を維持し、まちづくりと連携した防潮堤計画～

受賞機関 宮城県 気仙沼土木事務所
気仙沼市

キーワード 海水浴場の砂浜維持、創造的復興、
海岸の所管換、線路敷をBRT化

全建賞審査委員会の評価ポイント

堤防復旧に際して海水浴場の砂浜維持とまちづくりを連携させた事業。地域住民等が中心となって大谷海岸地区の整備構想をとりまとめ、多くの関係機関が連携して取り組んだことにより、例えば、国道と防潮堤を兼ねる「兼用堤」とすることで砂浜の維持、道の駅整備も含めて連携して実施し、地域の安全のみならず、砂浜と眺望を活かした地域活性化との両立を図り、新しい賑わいが創出されたことなどが評価された。

1. はじめに

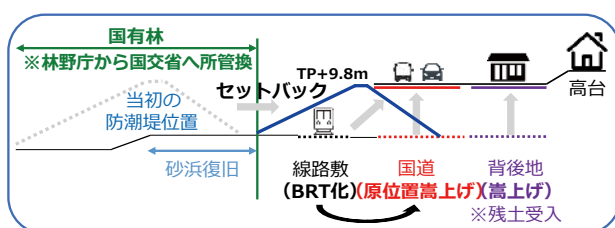
東日本大震災で壊滅的被害を受けた大谷地区海岸では、津波と地盤沈下により砂浜のほとんどが消失した。残された僅かな砂浜の上には、高さ9.8mの防潮堤の建設が予定され、地域の象徴である大谷地区海岸の砂浜が失われる計画であり、地元説明会において反対、計画の変更を求められたため、若者世代を中心とした「大谷里海づくり検討委員会」が作成した住民案を基に、各行政機関の関係者協議や検討委員会との意見交換会等で議論を重ね、海岸背後を走る国道を嵩上げし、防潮堤を兼ねることで震災前の砂浜の広さを復旧する計画へ変更した。本事業は、海水浴場の砂浜維持とまちづくりを連携させることにより、地域の安全のみならず、砂浜と眺望を活かした地域活性化との両立を図る創造的復興に取り組んだものである。

2. 事業の概要

大谷地区海岸の復旧においては、環境省の「快水浴場百選」に選ばれた砂浜を埋めて海岸防災林と防潮堤を復旧する当初の計画を見直し、林野庁所管の治山海岸の一部を国土交通省所管の建設海岸に変更する海岸の所管換を行い、防潮堤位置を山側へ大きくセットバックすることで従前の規模の前浜を確保した。

また、県事業の附帯工事として国道の原位置嵩上げを行うことにより、国有林の背後にあったJRの線路敷をBRT化して防潮堤用地にするとともに、市のストック

復旧イメージ



砂浜を維持し、地域の賑わい創出に向けた復旧計画

ヤード整備事業を活用した残土受入により背後地も嵩上げし、被災した道の駅「大谷海岸」を復旧。砂浜から背後地までの一体的な整備を行った。

3. 事業の成果

大谷地区海岸の砂浜の再生をまちづくりの上位概念とし、地域の活動を通じて合意形成を図ることにより、防潮堤計画の見直しを進めることができた。また、治山海岸は保安林エリアより山側に海岸護岸施設を設置できない制約があるため、海岸の所管換を行うことで防潮堤を山側へ大きくセットバックし、砂浜面積2.8ha以上を確保することができた。このことにより、国道と背後地を嵩上げし、JR気仙沼線BRT大谷海岸駅を併設した道の駅を国道背後地に移転、国道の法面をベンチ状の防潮堤とすることで、海が見える景観を確保しつつ、法面自体も人が集える場所とし、親水性を高め、さらに海岸のどこにいても避難が可能な構造とすることが可能となった。



令和3年7月17日海水浴場オープン後の航空写真

4. おわりに

大谷地区の象徴である大谷海岸の砂浜の再生は地域の悲願であり、地域が一体感を持って作成した住民案が実現されたことにより、人々の心に強い復興の実感をもたらした。今後は、定期的なビーチクリーンによる環境美化やイベントの開催により、海水浴客や観光客のリピーターの増加とともに、道の駅などの商業施設の収益の増加が見込まれる。また、海洋教育等の場として活用することで、地域の子どもたちへの教育効果と郷土愛の醸成が期待される。

賛助会員 (株)建設技術研究所、五洋建設(株)、(株)只野組、(株)長大、(株)本間組、三井共同建設コンサルタント(株)、若築建設(株)、(株)出口組

②多機能インフラの連携による大和川高規格堤防整備事業 ～先行整備街区の整備について～

受賞機関 国土交通省 近畿地方整備局 大和川河川事務所
堺市
独立行政法人 都市再生機構
阪神高速道路株式会社

キーワード 多機能インフラの連携、先行整備街区、
公共減歩ゼロ

全建賞審査委員会の評価ポイント

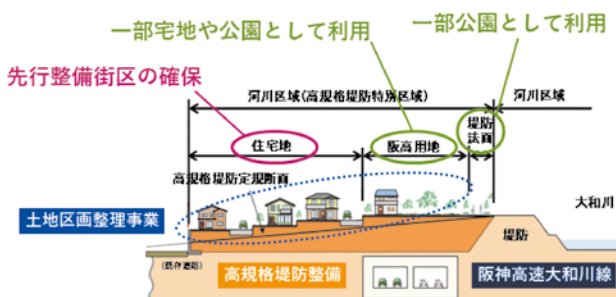
高規格堤防整備にあたり、高速道路整備や土地区画整理事業が連携し一体的に実施した取組。道路買収地や公園用地等を活用して先行整備街区を設け、物件移転を一度としたことや堤防裏法面や高速道路上部の空間土地の一部を宅地や公園として活用し公共減歩ゼロとしたことなどにより、地権者への負担軽減や工期短縮による早期事業効果を発現した点が評価された。

1. はじめに

大和川では、堤防が決壊すると多くの人口・資産が壊滅的な被害を受ける可能性が高い下流側において、高規格堤防の整備区間を設定している。高規格堤防とは、通常の堤防の高さの30倍の幅を持った、超過洪水対策として整備される堤防である。

2. 事業の概要

高規格堤防整備事業には、事業の長期化やコスト増大等の要因となる課題がある。まず、用地買収を伴わない事業のため、堤防整備期間中は地区外への仮移転が必須となり、地権者の生活再建への負担が増大すること。次に、仮移転により二度移転に伴う補償費及び期間が必要となり、事業が長期化し、コストも増大すること。最後に、整備区間内に大規模な工場等が存在する場合、経営の継続性などもあり、建替や移転の時期を待つしかなく、事業が長期化することが挙げられる。現在、整備区間の左岸側（堺市）の三宝地区において、阪神高速大和川線の道路事業と土地区画整理事業（施行者：UR都市機構）によるまちづくり事業の多機能インフラが連携し、一体的に整備を進めている。



整備後の断面及び高規格堤防上の活用イメージ

3. 事業の成果

多機能インフラの連携により事業における課題等を解決し、事業推進を図ってきた。主な効果として、1つ目に、道路事業において、大規模工場に対して道路区域外を含めた一括買収を実施し、公園や下水処理施設の堺市用地を合わせて活用することで、移転種地となる先行整備街区を確保した。通常、仮移転を伴う二度移転により生活再建の負担が増大するが、先行整備街区への一度移転により、速やかな生活再建を可能とし、地権者への負担を軽減した。また、仮移転が不要となったことから、工期の短縮、補償費用も縮減された。2つ目に、土地区画整理事業では、公共施設の整備改善に必要な土地を地権者に負担を求めて確保することが一般的であるが、堤防裏法面や阪神高速大和川線上部の一部を公園として活用することで、公共減歩ゼロを実現し、地権者の負担を軽減した。



先行整備街区の状況（令和4年4月 UR都市機構撮影）

4. おわりに

多機能インフラの連携・一体整備により、事業における課題等を解決し、先行整備街区の街並みは大きく変化し、かわとまちが一体となった快適な住環境を実現した。今後整備を予定している範囲についても、引き続き多機能インフラの連携により事業推進を図っていく。

③国道486号「道の駅 山陽道やかげ宿」整備事業

受賞機関 岡山県 備中県民局 建設部 井笠地域工務課
矢掛町 建設課

キーワード 重要伝統的建造物群保存地区、道の駅施設と商店街の一体化、駅舎デザイン、地域活性化

全建賞審査委員会の評価ポイント

まちづくり、道路整備と道の駅整備の連携事業。歴史ある街並みをいかして、景観に配慮した道の駅、周辺地区の無電柱化事業、石畳風の舗装高質化事業などを連携して一体的に整備し、町中の道の駅の新たなデザインが提示された点や、地域資源との連携によりゲートウェイ機能としての道の駅とした点が評価された。

1. はじめに

岡山県南西部に位置する矢掛町は、江戸時代に宿場町として栄え、東西に国道486号と並走する旧山陽道に往時の面影を残す町並みがある。参勤交代で往来する大名が宿泊した矢掛本陣等は国の重要文化財に指定されており、令和2年には重要伝統的建造物群保存地区にも選定されるなど、歴史ある町並みが魅力の一つとなっている。

「道の駅 山陽道やかげ宿」は、歴史ある町並みと商店街が共存するエリアに、国道486号を管理する岡山県と矢掛町の一体型整備手法によって整備が行われ、令和3年3月28日に開業した。

2. 事業の概要

この道の駅の最大の特徴は、飲食・物販コーナーを設けていないことである。道の駅の役割は、「機能性と景観を両立した駐車場やトイレなどの道路施設」と、「観光・特産品の情報発信に特化した町の総合的なゲートウェイ施設」と位置付け、地元住民・商店街振興会・観光協会・町などが連携し、『やかげまるごと道の駅』のコンセプトのもと、隣接する商店街そのものを道の駅の物販及び飲食コーナーとみなし、道の駅施設と商店街の一体化を図ることで、市街地全体の活性化を目指した。

道の駅に隣接する重要伝統的建造物群保存地区におい



道の駅 山陽道やかげ宿

ては、『やかげまるごと道の駅』全体として良好な景観を形成するため、矢掛町が町道の無電柱化事業を推進し、石畳風の舗装高質化事業を実施した。

駅舎デザインは、岡山県出身の工業デザイナー水戸岡鋭治氏に監修いただき、観光客はもちろん、地元住民にも心地よさと豊かな時間を実感できるよう願いを込めた。外装は、町並みと親しく調和しながらランドマークとしての役割を果たし、内装は、かつて大名が宿泊した地にふさわしい深みと品格のある空間とする「新たな本陣」を目指した。

3. 事業の成果

矢掛町は人口1万4千人の町であるが、地域を挙げての取組の結果、開業4ヶ月で10万人もの来場者があり、令和3年7月には10万人目の記念セレモニーを行った。

道の駅に隣接する商店街の町道を歩行者天国とし、イベント「やかげまるごと道の駅」を開催したところ、大勢の家族連れが訪れ、大いに賑わい、商店主からも好評であった。

地元及び商店街等と一体となった定期的なイベントでの盛り上がりだけでなく、商店街には行列のできる店が増え、新規出店も続くなど、新たな賑わいが生まれている。



歩行者天国となり賑わう商店街

4. おわりに

矢掛町は、町と地元住民が連携し、まさに「まるごと」を駆使した地域活性化を目指しており、

「道の駅 山陽道やかげ宿」の開業は、「賑わいのまち矢掛町」を実現するための新たなスタートと考えている。町内外を問わず多くの方々とともに、矢掛町の新たな魅力を発信していきたい。

賛助会員 復建調査設計(株)